

## 授業が始まって3週目になりました



4月10日(月)に一学期の授業が始まりました。今週は授業がスタートしてから3週目となりました。

新しい学級で、新しいお友達と、新しい先生での学校生活。ちょっと緊張しながらも、着実に子どもたちは自分のペースをつかみ、落ち着いて学習に取り組んでいます。

どの学級からも明るい声が聞こえてきて、楽しそうに授業に臨んでいます。

「最初が肝心」という言葉のとおり、学習の基本的な習慣をしっかり今の時期に身に付けて欲しいと思います。

## 校医さんによる各種の検診が始まりました

先週行われました耳鼻科検診をはじめ、これから校医さんによる、内科検診や眼科検診等が始まります。学年・学級通信等で、注意すること等や準備すること等の連絡があったかと思えます。

検診の結果、治療等が必要な場合は、できるだけ早めに病院等で受診をお願いします。

特に、6月からは水泳指導も始まりますので、よろしくお願いします。



## 児童のすばらしい俳句がいっぱい



上毛新聞を宣伝するわけでは全くありませんが、同新聞の中に「上毛ジュニア俳壇」のコーナーがあります。主に群馬県内の児童・生徒の、すばらしい俳句がたくさん掲載されています。また、特に選者さんが「すばらしい」と認めた句は、毎日、同新聞の1面の「朝の一句」のコーナーに児童・生徒の顔写真とともに掲載されます。

今年度(4月以降)になってから掲載された、本校児童(卒業生を含む)の作品を以下紹介します。いずれの俳句も力作ばかりです。

### <4月6日(木)「上毛ジュニア俳壇」掲載>

おひなさま花粉感じずすまし顔	6年	鍛治	桜音さん	
新しい自転車に吹く春の風	中1年(卒業生)	松本	葵衣さん	
おはようと声をかけたら花が咲く	6年	狩野	心結さん	
春の色着ているマネキンうれしそう	6年	春木	千慧さん	

### <4月13日(木)「上毛ジュニア俳壇」掲載>

うめの花一つ一つがマスクみたい	3年	町田	芽菜さん
冬庭の大きな日なた猫さんぽ	5年	松本	芽依さん
いもうとのけんこうおねがいひなまつり	3年	栗原	歩夢さん
おとうとと同じしんちょう雪だるま	3年	細井	泉希さん

### <4月20日(木)「上毛ジュニア俳壇」掲載>

ひな祭り今年もおいしい祖母のすし	中1年(卒業生)	松本	葵衣さん
------------------	----------	----	------

### <4月5日(水)「朝の一句」掲載>

青い空くもがひょっこり顔だした	6年	須永	理仁さん
-----------------	----	----	------

<4月9日(日)「朝の一句」掲載>

くしゃみでわたしの春のはじまりだ

3年 町田 芽菜さん

子どもたちのみずみずしい感性、鋭い観察眼、子どもらしい表現、とてもすてきです。

季節感を養うこと、言葉を使って自らが感じたこと・思ったこと・考えたことを、うまく他者に伝えること等々、本当に子どもたちにとって意義のある学習だと私は思います。

「季節感」と言いますと思い出すが、私が国立赤城青少年交流の家で指導職をしていた時のことです。春先にサークルでやってきた大学生が、「菜の花」を見て「菊」と言い、秋口にやってきた大学生が、「彼岸花」を見て「薔薇」と言っていたことです。

## 「認知能力」と「非認知能力」について

あまり耳にしない言葉ですね。

人間の能力は、大きく「認知能力」と「非認知能力」の2種類に分けられると言われてい

ます。「認知能力」とは、IQ(知能指数)に代表されるような、点数などで数値化できる知的能力のことです。IQという言葉は一般的にもよく知られており、大人が子どもの能力を把握する上で参考にしやすい指標のひとつですね。

一方「非認知能力」とは、認知能力以外の能力を広く示す言葉で、テストなどで数値化することが難しい、内面的なスキルを指すと言われてい



ます。具体的には「意欲」「協調性」「粘り強さ」「忍耐力」「計画性」「自制心」「創造性」「コミュニケーション能力」といった、測定できない個人の特性による能力のことです。しばしば、学力(認知能力)と対照して用いられます。学術研究によって、この非認知能力の高さが学歴や雇用、収入に影響することが明らかになっていることから、幼児教育・初等教育をはじめとして、教育界で注目されています。

群馬県教育委員会も、この能力の育成を重点施策の1つに位置付けており、先日、この非認知能力の育成に力を入れるため、高崎女子高校と前橋南高校の公立高校2校を指定校に選び、施策を推進していくこととしています。

非認知能力は、学力のように1人で身につけられるものとは異なり、集団での行動の中で養われるものが多く、時として、困難や失敗、挫折などの経験を通して養われるものも多いですね。

これからますます社会の在り方は大きく変化し、先行き不透明な時代になっていくことが予想されます。そんな未来社会を生き抜くためにも、学校や家庭で非認知能力を育ていけるよう、様々な活動や場面を工夫していく必要がありますね。

独立行政法人国立青少年教育振興機構では、平成18年度より興味深い調査をしています。簡単に言いますと、子どもの頃の自然体験活動や生活体験の多寡(多い・少ない)が、その後の人間形成や人生にどのような影響を及ぼしているかというものです。

同機構のホームページには、その調査結果が報告書として掲載されていますので、詳しくはそちらをご覧くださいと思います。

その結果のひとつに、「自然体験や生活体験、お手伝いなどの体験が豊富な子供や、生活習慣が身についている子供ほど、『今の自分が好きだ』『体力には自信がある』といった自己肯定感や、『家であいさつをすること』『友達が悪いことをしていたら、やめさせること』といった道徳観・正義感が高くなる傾向がみられる。」とあります。

急速なネット社会化の影響やコロナ禍での制限のある生活等により、なかなか自然体験活動を行う機会や時間が思うようにとれない状況にあるのかもしれませんが、ゴールデンウィークがまもなくやってきますので、お子さんと自然体験をいっしょに思いっきりしてみたいかがですか。

